

# 秋 川の汚れを調べる

「石けんを広める佐世保ネットワーク」は、家庭排水などによる川の汚れを調べようと、昭和59年から毎年夏休み期間中に水生生物による水質調査を実施しています。

昨年は、雨の影響で9月に開催され、親子連れなど10人が参加し、強い日差しの中で熱心に調査を行いました。



(写真上) 下流で水生生物を調べる

(写真右) 飛び石を渡る参加者

## 相浦川下流

昨年の9月7日、8時30分に愛宕町・相浦警察署裏にある「飛び石」前に集合しました。

「石けんを広める佐世保ネットワーク」の会長を務める松井千代子さんのあいさつの後、事務局長から調査方法などの説明がありました。

青空の下、正面にそびえる愛宕山を見上げながら、川の真ん中の中州まで、飛び石を渡りました。葦や草をかき分けながら進み、調査地点に着きました。

長靴を履いて川の中に入ると、大きなコイや小魚が泳いでいました。川面に日の光が反射し、キラキラと光っています。

川の状態は季節や天候によって日々変化し、水の汚れにも影響を与えています。この日の川の状態を知るために、長い測り棒を水面に立て、水深を測り、糸の付いた赤い玉を流して流れの速さを測定します。水深20センチ、水温26度、水の流れは「速い」という結果が出ました。

川底から小石を拾い、バット（採集用の白い箱）に入れ、石に付いた水生生物（水にすむ昆虫の幼虫など）を観察しました。「きれいな水」の指標生物のウズムシが見つかりました。指標生物とは、水の汚れを調べる

ための基準となる水生生物で、「きれいな水」「少し汚い」「汚い」「大変汚い」の4分類で水質を判断します。調査が一段落すると、参加者は出発地点まで戻り、次の調査地点・大野町の乙女橋へと向かいました。

## 中流

乙女橋に着き、河原に下りて行きました。下流に比べると、この辺りは川の流れも速くなっています。

水質調査の結果、指標生物が4種類見つかり、「すこし汚い水」のコガタシマトビケラ、「汚い水」のヒルガが多く見つかりました。これは、住宅が密集していることと関係しているのかもしれない。

## 上流

最後の水質調査は、里美町の石ヶ倉橋付近で行いました。この付近は「ホタルの里」と呼ばれていて、森や田んぼに囲まれています。川幅



中流で調査を終えて

## 2年連続で参加しました



相浦西小学校2年 大野斗斗君

きょうは、朝早く起きました。上流ではサワガニもつかれました。中流は少し濁っていました。までき白くもよく行きますが、川はもっと

調査を手伝ったり、今ま知らなかったいろいろな生物と触れ合ったりして面白かったです。プールに行きますが、川はもっと

は狭く、川底には石がゴロゴロ転がっています。指標生物は4種類見つかりましたが、一番多かったのは「きれいな水」の指標生物のヒラタカゲロウでした。



上流で調査

## この日の水質調査結果

相浦川の下流は「きれいな水」、中流は「少し汚い水」、上流は「きれいな水」という結果が出ました。

下流については、前回の調査では「少し汚い水」の指標生物が多く見つかりました。

# 川の汚れの原因を探る

水や空気の汚れを調べたり、ごみの分別を学んだりして、環境問題を考える「おもしろエコ塾」の第1回講座「川が汚れる原因を探れ！」が、昨年9月に開催されました。

相浦川中流域で水生生物の調査をした後、採集した川の水を稲荷町の市環境センターに持ち帰って検査し、水の汚れの原因などを調べました。



双ツ岩橋から河原へ

9月20日午前10時、小学生13人とその保護者6人の参加者が、市環境センターに集合しました。この講座を主催する市環境保全課の担当職員からこの日のスケジュールと調査方法などの説明を受けた後、小型バスに乗り込みました。

双ツ岩橋（瀬戸越3丁目）のたもとでバスを降り、長崎労災病院と相浦川の間を通って河原へ下り、調査

地点まで歩きました。乙女橋より少し上の中流域です。

まず、市環境保全課の職員から調査用の網とバットが渡され、使い方の説明を受けました。水の中へ入り、小石を裏返すと、小さな水生生物が付いています。また、網の口を上流側に向けて川につけ、虫や魚を集めました。

「魚がいた。カワゲラだ。ホタルの幼虫かな」と興奮した声が上がります。子どもたちはすっかり夢中になり、捕まえたものを次々にバットの中へ入れました。

1時間ほどで水生生物の採集を終えた子どもたちは、大事そうに河原まで運んでいました。この間、市担当職員は、水質検査用に川の数カ所



水生生物をバットに集め観察



バックテストをする市担当者と参加者

## 水生生物



カワゲラ



コガタシマトビケラ

## 水質検査に挑戦 (水生生物で検査)

河原では3班に分かれて、採集した生物を観察しました。ウズムシやミズムシ、オイカワという魚の子どものなどさまざまですが、一番多かったのは、「少し汚い」の指標生物のコガタシマトビケラやカワニナでした。

## (バックテスト)

市環境センターに戻り、昼食をすませた後、採集した水の汚れの検査を始めました。水の汚れを化学的に調べる方法がバックテストです。

## 環境にやさしい生活を

水の汚れの原因は工場や農業などの排水などもありますが、一番大きなものは生活排水です。次世代に住みよい環境を引き継ぐためにも、私たちの責任で川や海を守っていかねばなりません。

次のような身近なことから始めましょう。

- ・食用油は新聞紙に吸い取って燃やさないように努力する
- ・食材を使いいきり、調理くずを出さないように努力する
- ・合成洗剤より洗濯石けんを使う
- ・米のとき汁は植木などにかける